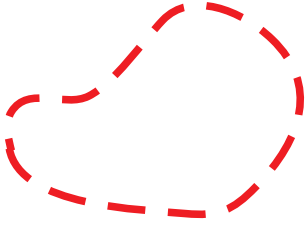


洪水ハザードマップの見方

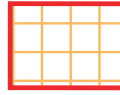
まず、別紙の飛騨川洪水ハザードマップを広げてください。
ハザードマップに描かれている色々な情報の見方を確認します。

避難が必要になる区域



この区域のみなさんは矢印で示してある各避難場所へ避難します。

急傾斜地崩壊危険箇所



急傾斜地崩壊危険区域

傾斜30度以上、高さ5m以上の急傾斜地に面して、崩壊により人家などに被害を与える恐れのある箇所です。その中でも法律の指定を受けた場所を急傾斜地崩壊危険区域といいます。

土石流危険渓流 土石流危険区域



土石流が発生した場合、被害が予想される渓流です。また、土砂の氾濫が予想される区域を土石流危険区域といいます。



浸水の深さの見方 想定される浸水の深さを色で分けてます。



5.0m・・・2階軒下くらい
2.0m・・・1階軒下くらい
1.0m・・・大人の腰くらい
0.5m・・・大人のひざくらい

	5.0 m以上の区域
	2.0～5.0 m未満の区域
	1.0～2.0 m未満の区域
	0.5～1.0 m未満の区域
	0～0.5 m未満の区域

飛騨川洪水ハザードマップにあるその他の凡例 (避難時危険箇所)

- アンダーパス** 大雨時に水がたまりやすく、通行止めになる可能性がある箇所です。
- 水害の起きやすい場所** 過去の大雨時に飛騨川以外で浸水等の被害が多くあった箇所です。